報道機関は日本の闇？
日本のマスコミがひた隠す事件を
海外メディアが報じた！

七月二十一日、米国ブログメディアの草分け的存在「ゴーカー・メディア」社が運営するNYのメディア「ゴーカー」にて次のような記事が配信された。

「これまでに目にした日本人の性的『変態』記事は事実であるのかもしれない。しかし、それが毎日新聞英語版で読んだ記事ならば、それは多分事実ではない。

日本の主要紙の一つである毎日新聞の英語版は、究極の倒錯世界をでっちあげた記事や、オリジナルの記事を故意に誤訳して報じてきた。

同社内部調査は、かつてのNYタイムズの記事捏造事件『ジェイソン・ブレア事件』（＊）に匹敵するものと指摘した。」

また、翌二十二日にはイギリスで発行部数一位を誇る権威ある高級紙、デイリーテレグラフの電子版でも「虚偽報道」と伝えられた。

しかし、意外にも国内でこの事件を知っている人は少ない。一部のネットユーザーしか知らないのだ。それは何故だろうか？

それは日本のテレビや新聞といった報道機関がこの事件に関して大きく取り扱わないからである。そのため、この事件はインターネットを利用して積極的に情報を集めている人、また、そんな彼らの口コミでしか広まっていないのである。

この事件は、海外の一流メディアが取り上げるような「マスコミ業界における一大事」である。しかし、日本の報道機関は詳細を報じていない。彼らには報道したくない、不都合な事情があるのだとしか思えてならない。

日米での報道機関による捏造事件の違い

	ジェイソン・ブレア事件	毎日変態捏造事件
処分	懲戒解雇	処分後、昇格 (担当部門長、社長へ昇進)
会社の対応	自ら検証 読者に報告	ネットで話題となり調査 調査結果の報告無し 証拠隠滅
記事の訂正	有	無
捏造理由	個人の功名心による捏造	仕事を失う恐怖感により 人気コーナーにしたかった
チェック体制	チェックをすり抜けられる個人インタビューなどで捏造	チェック体制無し (注目度を上げるために 増設したところ 人手不足になった)
掲載場所	報道の本筋である政治記事での部分捏造	ゴシップメディアの 扇情記事をさらに改変して 掲載

＊「ジェイソン・ブレア事件」
０３年にＮＹタイムズ紙のある記者が、５０本近くの記事を他メディアから盗用、または捏造していたことが発覚した事件。
編集主幹と編集局長が『辞任』するという事態にまで発展している。

■ ご確認の際はこちらをご参照下さい
検索ワード：毎日新聞　変態記事
毎日新聞問題の情報集積 wiki
http://www8.atwiki/mainichi-matome

このチラシはインターネット上の有志によって作成されています。（いかなる政治団体・宗教団体とも関係ありません）